



## 平成30年3月期 決算短信〔IFRS〕（連結）

平成30年5月15日

上場会社名 三浦工業株式会社

上場取引所 東

コード番号 6005 URL <http://www.miuraz.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員CEO (氏名) 宮内 大介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務本部長 (氏名) 原田 俊秀

TEL 089-979-7012

定時株主総会開催予定日 平成30年6月28日

配当支払開始予定日 平成30年6月29日

有価証券報告書提出予定日 平成30年6月29日

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト、機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期の連結業績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		当期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期	124,883	22.0	13,868	11.8	14,183	10.0	10,404	15.6	10,363	15.0	11,342	63.6
29年3月期	102,324	—	12,401	—	12,898	—	8,996	—	9,012	—	6,934	—

	基本的1株当たり 当期利益		希薄化後 1株当たり当期利益		親会社所有者帰属持分 当期利益率		資産合計 税引前利益率		売上収益 営業利益率	
	円	銭	円	銭	%	%	%	%	円	%
30年3月期	92.09		91.85		9.2	9.2	9.2	9.2	11.1	11.1
29年3月期	80.08		79.90		8.5	9.4	9.4	9.4	12.1	12.1

(参考) 持分法による投資損益 30年3月期 一百万円 29年3月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率		1株当たり親会社 所有者帰属持分	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	%	円	銭	
30年3月期	167,083	167,083	117,723	117,723	117,482	70.3	70.3	1,040.83		
29年3月期	140,245	140,245	108,888	108,888	108,685	77.5	77.5	963.30		

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー		投資活動による キャッシュ・フロー		財務活動による キャッシュ・フロー		現金及び現金同等物 期末残高	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
30年3月期	9,044	9,044	△13,931	△13,931	550	550	26,699	26,699
29年3月期	10,810	10,810	△1,440	△1,440	△2,415	△2,415	31,205	31,205

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円	銭	円	銭	円	銭	%	%
29年3月期	—	10.00	—	12.00	22.00	2,476	27.5	2.3
30年3月期	—	11.00	—	17.00	28.00	3,151	30.4	2.8
31年3月期(予想)	—	12.00	—	17.00	29.00		30.5	

### 3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	63,500	15.1	7,000	4.6	7,100	2.8	5,000	4.3	44.43	
通期	135,000	8.1	14,800	6.7	15,000	5.8	10,700	3.2	95.08	

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 2社 （社名）MLE株式会社、株式会社アイナックス稲本ホールディングス  
除外 1社 （社名）

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無  
② ①以外の会計方針の変更：無  
③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

30年3月期	125,291,112株	29年3月期	125,291,112株
30年3月期	12,751,387株	29年3月期	12,744,432株
30年3月期	112,538,613株	29年3月期	112,535,765株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成30年3月期の個別業績（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期	90,516	6.2	9,812	20.8	12,045	16.1	8,684	20.9
29年3月期	85,261	5.1	8,122	2.1	10,379	7.1	7,185	9.5

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期	77.16	76.96
29年3月期	63.85	63.70

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期	134,754	110,771	81.9	981.15
29年3月期	129,165	103,634	80.0	918.43

(参考) 自己資本 30年3月期 110,425百万円 29年3月期 103,366百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況 (4) 今後の見通し」をご覧ください。

(国際会計基準 (IFRS) の適用)

当社グループは、平成30年3月期第1四半期連結累計期間より国際会計基準(以下、「IFRS」という。)を適用しております。また、前連結会計年度の財務数値についても、IFRSに準拠して表示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
(5) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
2. 経営方針	5
(1) 会社の経営の基本方針	5
(2) 目標とする経営指標	5
(3) 中長期的な会社の経営戦略	5
(4) 会社の対処すべき課題	5
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	6
4. 連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 連結財政状態計算書	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結持分変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	14
(継続企業の前提に関する注記)	14
(連結財務諸表注記)	14
(セグメント情報)	23
(1株当たり情報)	25
(重要な後発事象)	25
(初度適用)	26

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当期の経営成績の概況

当社グループは第1四半期連結会計期間より、従来の日本基準に替えてIFRSを適用しており、前連結会計年度の数値もIFRSに組替えて比較分析を行っております。

#### ① 当期の経営成績

当連結会計年度における日本経済は、引き続き企業業績や雇用情勢が改善され、景気は緩やかな回復傾向が続きました。世界経済は、米国や欧州、中国を中心として世界的に緩やかに回復していますが、米国や中国における通商政策の問題や地政学リスクなど、先行き不透明な状況となっております。

このような状況の中で当社グループは、国内においては、営業・メンテナンス組織を事業別からエリア別に変更し、お客様の信頼に一層お応えできるよう「トータルソリューション」提案活動の強化に取り組んでおります。また、バラスト水処理装置のUSCG(米国沿岸警備隊)の型式認証取得を目指し、試験を進めてまいりました。

当連結会計年度の連結業績につきましては、国内においては、船用機器が減収となりましたが、主力の小型貫流ボイラや食品機器などの販売が企業の堅調な設備投資に支えられ好調に推移し、メンテナンス事業も増収となりました。また、第2四半期連結会計期間より加わった株式会社アイナックス稲本ホールディングス(2018年4月1日付けで株式会社アイナックス稲本ホールディングスは、アイナックス稲本株式会社に吸収合併されております。)及び同社傘下のアイナックス稲本株式会社(以下、「アイナックス稲本」という。)が営むランドリー事業も、インバウンド需要を背景に、売上が順調に推移し、当社グループの業績を大きく伸ばしました。海外においては、省エネルギーと環境負荷低減を基本としたソリューション提案営業活動により各国の販売が好調に推移しました。

利益面につきましては、人件費や設備投資による減価償却費、研究費が増加しましたが、増収効果により増益となりました。

売上収益は124,883百万円(前期比22.0%増)、営業利益は13,868百万円(前期比11.8%増)、税引前利益は14,183百万円(前期比10.0%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は10,363百万円(前期比15.0%増)とそれぞれ過去最高を更新しました。

セグメントの業績の概況は、以下のとおりであります。

なお、第2四半期連結会計期間より報告セグメント「国内ランドリー事業」の区分を追加しております。

#### ② 事業の種類別セグメントの概況

##### [国内機器販売事業]

国内機器販売事業は、船用機器においては、バラスト水処理装置の新船建造向けの売上が前期より増加したものの、当社グループのターゲット市場である中小型船の新船建造が減少していることなどにより船用ボイラや船上焼却炉などの受注が減少し、船用機器全体では減収となりました。一方、鉄鋼・機械の分野で小型貫流ボイラの売上が堅調に推移し、中食市場の拡大や食の安心安全を背景とした国産志向による新築工場向け物件の増加に伴い、真空冷却機や冷水装置などの食品機器の売上が好調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は58,194百万円と前期(54,819百万円)に比べ6.2%増となりました。セグメント利益につきましては、ベースアップや増員などにより人件費が増加するとともに、バラスト水処理装置のUSCG型式認証取得の試験などにより研究費も増加しましたが、増収効果により4,539百万円と前期(4,083百万円)に比べ11.2%増となりました。

##### [国内メンテナンス事業]

国内メンテナンス事業は、ボイラの設置台数の増加や大容量化及び有償保守契約取得の積極的な活動により売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は29,609百万円と前期(28,143百万円)に比べ5.2%増となりました。セグメント利益につきましては、7,896百万円と前期(7,320百万円)に比べ7.9%増となりました。

##### [国内ランドリー事業]

外国人観光客の増加によるホテルリネンの需要の増加を背景に、リネンサプライ業界は、省人化や自動化のニーズが高まり、工場の新築や設備の入替え等の大規模な投資が活発に行われています。その設備投資に支えられ、主力製品である連続式洗濯機の売上が堅調に推移しました。この結果、当事業の売上収益は13,880百万円となり、セグメント利益は買収に伴う諸費用や無形資産の償却を含め55百万円となりました。

##### [海外機器販売事業]

海外機器販売事業は、中国は、大気汚染の深刻な地域において窒素酸化物(NOx)の排出基準値が引き下げられる等、環境規制が強化され、石炭焚きボイラから高効率ガス焚きボイラへの入替需要が増加したことにより、大幅増収となりました。台湾やアセアン地域は、売上が好調に推移し、韓国や米州においてもソリューション提案営業などにより堅調に売上を伸ばしました。この結果、当事業の売上収益は18,065百万円と前期(14,856百万円)に比べ21.6%増となりました。セグメント利益につきましては、増員などによる人件費の増加と中国における販売網の拡大により費用が増加しましたが、増収効果により、1,104百万円と前期(934百万円)に比べ18.1%増となりました。

## 〔海外メンテナンス事業〕

海外メンテナンス事業は、拠点網の整備や有償保守契約の獲得活動を積極的に行い、各国とも前期より有償保守契約の取得率を伸ばしました。特に中国の伸びが、当事業を牽引しました。この結果、当事業の売上収益は5,075百万円と前期(4,451百万円)に比べ14.0%増となりました。セグメント利益につきましては、増員などによる人件費の増加と中国でのメンテナンス網の拡大に伴う経費が増加しましたが、増収効果により292百万円と前期(166百万円)に比べ76.1%増となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ26,838百万円増加し、167,083百万円となりました。流動資産は、主に営業債権及びその他の債権が8,868百万円、棚卸資産が3,641百万円それぞれ増加し、現金及び現金同等物が4,506百万円減少した結果、7,148百万円の増加となりました。なお、アイナックス稲本の連結子会社化による影響が、営業債権及びその他の債権4,417百万円、棚卸資産2,859百万円含まれております。非流動資産は、主に有形固定資産が3,476百万円、のれん及び無形資産が13,553百万円それぞれ増加し、19,689百万円の増加となりましたが、のれん及び無形資産の増加は主としてアイナックス稲本の連結子会社化による影響であります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ18,003百万円増加し、49,360百万円となりました。流動負債では、主に営業債務及びその他の債務が6,116百万円、その他の金融負債が4,555百万円、非流動負債では、主にその他の金融負債が2,702百万円、繰延税金負債が2,124百万円それぞれ増加しております。営業債務及びその他の債務の増加にはアイナックス稲本の連結子会社化による影響が5,953百万円含まれており、その他の金融負債はアイナックス稲本の株式取得に伴う借入金の増加、繰延税金負債の増加は主としてアイナックス稲本の連結子会社化により取得した無形資産に対するものであります。

資本合計は、主に利益剰余金が8,045百万円、その他の資本の構成要素が667百万円それぞれ増加したことにより、前連結会計年度末に比べ8,834百万円増加し、117,723百万円となりました。この結果、親会社所有者帰属持分比率は70.3%となります。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ収入が1,765百万円減少し、9,044百万円の収入となりました。これは主に税引前当期利益が増加したものの、営業債権及びその他の債権が増加したことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ支出が12,491百万円増加し、13,931百万円の支出となりました。これは主に事業の取得による支出が増加したことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比べ収入が2,966百万円増加し、550百万円の収入となりました。これは主に短期借入金の増加によるものです。

以上により、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ4,506百万円減少し、26,699百万円となりました。

## (4) 今後の見通し

次期の当社グループを取巻く国内の事業環境は、人手不足や原材料高騰の影響に伴う生産コスト・物流コストの上昇に加え、貿易摩擦への懸念や為替の変動により、経営環境は依然不透明な状況が続くものと思われませんが、緩やかな景気の拡大が続き、既存設備の維持更新に伴う設備投資需要は安定的に続くことが期待されます。海外の事業環境は、中国や韓国だけでなく他のアジア地域でも環境負荷低減や省エネルギーの意識が徐々に高まってくるものと思われれます。

今後の見通しにつきましては、国内においては、引き続き設備投資が堅調に推移し、ボイラだけでなくランドリー機器などの売上也堅調に推移するものと予想しております。船用機器は、当社グループのターゲット市場である中小型船の商船市場において新船建造の着工が停滞しており、売上の増加は小幅にとどまる見込みです。バラスト水処理装置のUSCG認証取得の取組みは引き続き進めてまいります。

海外においては、中国での環境規制に伴う高効率ガス焚きボイラへの入替需要は引き続き増加するものと予想しております。この販売台数の増加に対応するため、第2工場建設の準備を進めてまいります。その他の国・地域は、新規顧客の開拓と提案営業力の強化により、機器販売は堅調に推移するものと予想しております。メンテナンス事業は、海外での従業員教育に注力し、引き続き有償保守契約の取得率アップに努め、さらなる拠点展開を図ってまいります。

以上により、2019年3月期の通期業績につきましては、増収増益を予想しております。

[連結業績見通し]

	通 期
	金額(百万円)
売上収益	135,000
営業利益	14,800
税引前利益	15,000
親会社の所有者に帰属する当期利益	10,700

なお、年間配当金は1株当たり29円(中間12円、期末17円)を予定しております。

## (5) 利益分配に関する基本方針及び当期・次期の配当

利益分配につきましては、安定的な配当の継続を基本に、経営基盤の強化と将来の事業展開に備えるため内部留保の充実も図りつつ、会社の業績に対応した適正な利益還元を行うことが望ましいと考えております。この方針に従って、配当性向30%を目処として連結業績や財務状況等を総合的に勘案しながら決定し、配当水準の向上に努めてまいります。

内部留保金は、新技術・新製品の研究開発や生産・販売体制の構築など主に事業基盤・競争力の強化のための投資に活用してまいります。また、環境保全、安全、品質等を高めるための投資や生産性向上に向けた情報システムの再構築などにも充当し、企業価値の増大を図ってまいります。

当期の配当金につきましては、期末配当を1株当たり17円とし、先の中間配当金11円と合わせて年間の配当金を28円とさせていただきます。これにより、当期の連結配当性向は30.4%となる見込みです。

また、次期の配当金につきましては、当社連結業績予想を勘案し、1株当たり29円(中間12円・期末17円)を予定しております。

## 2. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献します」を企業理念に掲げ、その実現のため、エネルギーの有効利用や環境関連の分野で有用な製品やサービスを独自の技術力で創出し、世界のお客様のお役に立つことを目指しております。

その上で、企業価値の最大化を目指して透明性や効率性の高い経営に努め、株主をはじめとするステークホルダーの皆様の期待と信頼にお応えするとともに、健全な成長を図って企業の社会的責任を果たしてまいりたいと考えております。

さらに、当社グループは、「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」をモットーに信頼・連帯感・誇りで結ばれる風通しの良い職場の実現を目指し、働きがいのある企業風土づくりや人材育成などに取り組み、成長し続けるための基盤強化を図ってまいります。

### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、いかなる市場環境のもとでも利益を着実に拡大していくことが、企業価値の増大と株主利益の向上につながるものと考えております。当社グループは、営業利益の向上と従来ROE(自己資本当期純利益率)8%を経営目標としておりましたが、海外事業の黒字化等により安定した利益が確保できるようになってまいりましたので、来期よりROEの目標を10%に修正いたします。

2019年3月期には、営業利益148億円、親会社の所有者に帰属する当期利益107億円を年度経営目標として収益性の向上に取り組んでまいります。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、国内は、お客様に熱・水・環境の分野においても独自技術によるトータルソリューションをグループの総合力で進化させながら提供することにより、事業の拡大を図ってまいります。海外においては、省エネルギーと環境保全の提案など国内で長年培ったビジネスモデルを展開し、事業基盤の強化と収益力の向上に努めてまいります。また、グローバルな市場のニーズにマッチした新製品の開発や設計・製造一体となった品質の追求に取り組み、企業ブランドの浸透を図ってまいります。

さらには、中長期的な企業価値向上を図るべくESG経営への取り組みを継続するとともに、働き方改革や生産性の向上に向けたIT技術の活用に取り組み、グループの成長基盤を強化してまいります。

中期計画として、以下を目標に経営を行ってまいります。なお、中期計画は毎年経営環境の変化に応じて見直す「ローリング方式」により立案いたします。

(単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上収益	135,000	148,000	160,000
営業利益	14,800	16,500	18,000

### (4) 会社の対処すべき課題

#### ① 新製品の開発

国内においては、ボイラ、船用機器、水処理機器、食品機器、メディカル機器、未利用熱回収装置、環境分析装置に加え、ランドリー機器と燃料電池をラインナップへ追加しましたが、あらゆるお客様の付加価値を最大化できるトータルソリューションを提供する新商品の開発を引き続き積極的に進めてまいります。

#### ② 海外への日本のビジネスモデルの展開

世界のお客様に、日本と同等の品質のサービスを提供できるよう、人的投資を積極的に行い、各国の拠点網の拡充、従業員教育の充実を図ってまいります。

#### ③ トータルソリューションによる事業の拡大

当社グループは、中長期の経営戦略として、トータルソリューションに基づいた事業拡大を掲げております。具体的には、主力製品であるボイラを核として周辺機器をつなぐことにより、お客様の工場全体で抱えられている問題を解決し、お客様に更なる成長をしていただける環境作りを目的とした活動です。当社グループはこのトータルソリューションを拡大し、進化させるため、引き続き他社との協業やM&Aも検討してまいります。

④ 働き方改革への取り組み

当社グループは、お客様の信頼を得るためには、経験を積み、質の高いサービスを提供することが必要不可欠であり、そのためには、従業員同士がしっかりとコミュニケーションをとり、意思疎通が図れて働きやすい職場にすることが必要であると考えております。これまで、人事制度の充実やワークライフバランスの推進などにより、育児・介護などの事情を抱えた従業員が活躍できるような職場の実現に注力してまいりましたが、当社グループで働く外国人や障がい者の方々も増加していることから、今後はさらに従業員の多様性を尊重し、それぞれの個性が生かせる職場づくりを積極的に進めてまいります。

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上、並びにグループ内の会計処理統一によるグローバル経営の更なる推進などを目指し、2018年3月期第1四半期より、IFRSを任意適用しております。

## 4. 連結財務諸表及び主な注記

## (1) 連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	IFRS移行日 (2016年4月1日)	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物	24,222	31,205	26,699
営業債権及びその他の債権	29,408	31,197	40,066
その他の金融資産	12,236	10,824	9,897
棚卸資産	13,808	15,014	18,656
その他の流動資産	571	591	663
流動資産合計	80,247	88,835	95,983
非流動資産			
有形固定資産	35,791	36,168	39,645
のれん及び無形資産	658	795	14,348
その他の金融資産	13,649	11,134	12,910
退職給付に係る資産	1,237	826	1,336
繰延税金資産	1,562	2,414	2,462
その他の非流動資産	95	70	396
非流動資産合計	52,994	51,410	71,099
資産合計	133,242	140,245	167,083

(単位: 百万円)

	IFRS移行日 (2016年4月1日)	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
負債及び資本			
負債			
流動負債			
営業債務及びその他の債務	7,599	7,515	13,632
その他の金融負債	28	6	4,561
未払法人所得税等	2,177	2,386	2,594
引当金	706	889	1,103
その他の流動負債	17,594	19,762	21,790
流動負債合計	28,107	30,559	43,682
非流動負債			
その他の金融負債	16	12	2,715
退職給付に係る負債	386	430	393
引当金	1	1	1
繰延税金負債	81	54	2,179
その他の非流動負債	370	298	388
非流動負債合計	856	797	5,678
負債合計	28,963	31,356	49,360
資本			
資本金	9,544	9,544	9,544
資本剰余金	10,344	10,406	10,489
利益剰余金	87,958	93,859	101,905
自己株式	△7,042	△7,020	△7,019
その他の資本の構成要素	3,207	1,894	2,562
親会社の所有者に帰属する持分合計	104,012	108,685	117,482
非支配持分	266	203	241
資本合計	104,278	108,888	117,723
負債及び資本合計	133,242	140,245	167,083

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
売上収益	102,324	124,883
売上原価	60,176	75,946
売上総利益	42,148	48,936
販売費及び一般管理費	30,247	35,551
その他の収益	622	575
その他の費用	121	91
営業利益	12,401	13,868
金融収益	497	380
金融費用	0	66
税引前当期利益	12,898	14,183
法人所得税費用	3,901	3,778
当期利益	8,996	10,404
当期利益の帰属		
親会社の所有者	9,012	10,363
非支配持分	△15	40
当期利益	8,996	10,404
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益	80.08円	92.09円
希薄化後1株当たり当期利益	79.90円	91.85円

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
当期利益	8,996	10,404
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	△1,256	955
確定給付制度の再測定	△748	271
純損益に振り替えられることのない項目合計	△2,004	1,226
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	△56	△288
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	△56	△288
税引後その他の包括利益	△2,061	938
当期包括利益	6,934	11,342
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	6,951	11,302
非支配持分	△16	40
当期包括利益	6,934	11,342

## (3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	在外営業活動体の換算差額
2016年4月1日残高	9,544	10,344	87,958	△7,042	3,207	—
当期利益	—	—	9,012	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	△1,257	△55
当期包括利益合計	—	—	9,012	—	△1,257	△55
ストック・オプション発行に伴う報酬費用	—	62	—	—	—	—
ストック・オプション行使に伴う自己株式の処分	—	△24	—	24	—	—
配当金	—	—	△2,362	—	—	—
子会社に対する所有者持分の変動	—	24	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△2	—	—
自己株式の処分	—	0	—	0	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	△748	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	62	△3,111	22	—	—
2017年3月31日残高	9,544	10,406	93,859	△7,020	1,950	△55

	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計
	その他の資本の構成要素		合計			
	確定給付制度の再測定	合計				
2016年4月1日残高	—	3,207	104,012	266	104,278	
当期利益	—	—	9,012	△15	8,996	
その他の包括利益	△748	△2,061	△2,061	△0	△2,061	
当期包括利益合計	△748	△2,061	6,951	△16	6,934	
ストック・オプション発行に伴う報酬費用	—	—	62	—	62	
ストック・オプション行使に伴う自己株式の処分	—	—	0	—	0	
配当金	—	—	△2,362	△3	△2,366	
子会社に対する所有者持分の変動	—	—	24	△44	△19	
自己株式の取得	—	—	△2	0	△1	
自己株式の処分	—	—	0	0	0	
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	748	748	—	—	—	
所有者との取引額等合計	748	748	△2,278	△47	△2,325	
2017年3月31日残高	—	1,894	108,685	203	108,888	

当連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	
					その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	在外営業活動体の換算差額
2017年4月1日残高	9,544	10,406	93,859	△7,020	1,950	△55
当期利益	—	—	10,363	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	955	△287
当期包括利益合計	—	—	10,363	—	955	△287
ストック・オプション発行に伴う報酬費用	—	78	—	—	—	—
ストック・オプション行使に伴う自己株式の処分	—	—	—	—	—	—
配当金	—	—	△2,588	—	—	—
子会社に対する所有者持分の変動	—	2	—	—	—	—
自己株式の取得	—	—	—	△0	—	—
自己株式の処分	—	2	—	1	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	271	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	82	△2,317	0	—	—
2018年3月31日残高	9,544	10,489	101,905	△7,019	2,906	△343

	親会社の所有者に帰属する持分				
	その他の資本の構成要素		合計	非支配持分	資本合計
	確定給付制度の再測定	合計			
2017年4月1日残高	—	1,894	108,685	203	108,888
当期利益	—	—	10,363	40	10,404
その他の包括利益	271	938	938	△0	938
当期包括利益合計	271	938	11,302	40	11,342
ストック・オプション発行に伴う報酬費用	—	—	78	—	78
ストック・オプション行使に伴う自己株式の処分	—	—	—	—	—
配当金	—	—	△2,588	△0	△2,589
子会社に対する所有者持分の変動	—	—	2	△3	△1
自己株式の取得	—	—	△0	0	△0
自己株式の処分	—	—	3	1	4
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	△271	△271	—	—	—
所有者との取引額等合計	△271	△271	△2,505	△2	△2,507
2018年3月31日残高	—	2,562	117,482	241	117,723

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期利益	12,898	14,183
減価償却費及び償却費	2,482	3,649
減損損失	20	—
受取利息及び受取配当金	△355	△364
為替差損益(△は益)	△30	8
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△1,856	△5,681
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,226	△1,501
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	435	1,175
未払賞与の増減額(△は減少)	831	△222
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△582	△129
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△35	△21
前受金の増減額(△は減少)	1,159	461
その他	431	1,330
小計	14,171	12,887
利息及び配当金の受取額	358	366
利息の支払額	△0	△22
法人所得税等の支払額	△3,719	△4,186
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,810	9,044
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△16,925	△12,465
定期預金の払戻による収入	21,777	12,936
有形固定資産の取得による支出	△3,241	△4,858
無形資産の取得による支出	△331	△586
投資の取得による支出	△9,203	△6,417
投資の売却又は償還による収入	6,716	6,707
事業の取得による支出	—	△8,902
その他	△232	△345
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,440	△13,931
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△22	3,900
長期借入れによる収入	—	3,000
長期借入金の返済による支出	—	△3,675
配当金の支払額	△2,360	△2,585
非支配持分への配当金の支払額	△3	△0
その他	△29	△88
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,415	550
現金及び現金同等物に係る換算差額	28	△170
現金及び現金同等物の純増減額(△は減少)	6,982	△4,506
現金及び現金同等物の期首残高	24,222	31,205
現金及び現金同等物の期末残高	31,205	26,699

## (5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

## (連結財務諸表注記)

## 1. 報告企業

三浦工業株式会社(以下、「当社」という。)は日本に所在する株式会社であります。その登記されている本社の住所は、愛媛県松山市であります。当社の連結財務諸表は、当社及び連結子会社(以下、「当社グループ」という。)により構成されております。

当社グループは、主として産業用及び船用ボイラ、水処理・業務用クリーニング機器及び関連機器の製造・販売事業並びにメンテナンス事業を展開しております。当社グループの主要な活動は、注記「セグメント情報」をご参照ください。

## 2. 作成の基礎

## (1) 連結財務諸表がIFRSに準拠している旨及び初度適用に関する事項

当社グループの連結財務諸表は、連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IFRSに準拠して作成しております。

当社グループは、当連結会計年度の第1四半期連結会計期間よりIFRSを適用しております。当連結会計年度の連結財務諸表がIFRSに従って作成する最初の連結財務諸表であり、IFRS移行日は2016年4月1日であります。当社グループはIFRS移行にあたり、IFRS第1号「国際財務報告基準の初度適用」(以下、「IFRS第1号」という。)を適用しております。IFRSへの移行が、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響は、注記「初度適用」に記載しております。

## (2) 測定の基礎

連結財務諸表は注記「3. 重要な会計方針」に記載する会計方針に基づいて作成されております。資産及び負債の残高は、別途記載がない限り取得原価に基づき計上しております。

## (3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## (4) 新基準の早期適用

当社グループは、2018年3月31日現在有効なIFRSに準拠しており、IFRS第9号「金融商品」(2014年7月改訂)を早期適用しております。

### 3. 重要な会計方針

以下に記載されている会計方針は、他の記載がない限り、連結財務諸表(IFRS移行日の連結財政状態計算書を含む)に記載されているすべての期間において、継続的に適用されております。

#### (1) 連結の基礎

子会社とは、当社グループにより支配されている企業をいいます。

支配とは、投資先に対するパワーを有し、投資先への関与により生じるリターンの変動にさらされ、かつ、投資先に対するパワーを通じてリターンの額に影響を及ぼす能力を有している場合をいいます。

子会社の財務諸表は、当社グループが支配を獲得した日から支配を喪失する日まで、連結の対象に含めております。

当社グループの連結財務諸表は、当社及び子会社の財務諸表に基づき、統一された会計方針を用いて作成しております。子会社が採用する会計方針が当社グループと異なる場合には、必要に応じて当該子会社の財務諸表に調整を加えております。また、連結財務諸表の作成にあたり、当社グループ間の内部取引高、内部取引によって発生した未実現損益及び債権債務残高を相殺消去しております。子会社の包括利益は非支配持分が負の残高となる場合であっても、親会社の所有者に帰属する持分と非支配持分に帰属させております。

連結財務諸表には、決算日を親会社の決算日と統一することが、子会社の所在する現地法制度上不可能である等の理由により、親会社の決算日と異なる日を決算日とする子会社の財務諸表が含まれております。子会社の決算日を連結決算日に統一することが実務上不可能である場合は、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

#### (2) 企業結合

企業結合は取得法を用いて会計処理しております。取得対価は、被取得企業の支配と交換に譲渡した資産、引き受けた負債、被取得企業のすべての非支配持分及び当社が発行する資本性金融商品の取得日の公正価値の合計として測定しております。取得対価が識別可能な資産及び負債の公正価値を超過する場合は、のれんとして計上しております。反対に下回る場合には、直ちに純損益として認識しております。発生した取得関連コストは費用として認識しております。なお、支配獲得後の非支配持分の追加取得については、資本取引として会計処理しております。

#### (3) 外貨換算

##### ① 外貨建取引

当社グループの各企業は、その企業が営業活動を行う主たる経済環境の通貨として、それぞれ独自の機能通貨を定めており、各企業の取引はその機能通貨により測定しております。

各企業が個別財務諸表を作成する際、その企業の機能通貨以外の通貨での取引の換算については、取引日の為替レート、又は取引日の為替レートに近似するレートを使用しております。

期末日における外貨建貨幣性資産及び負債は、期末日の為替レートで換算しております。

換算又は決済により生じる為替差額は、純損益として認識しております。

##### ② 在外営業活動体

在外営業活動体の資産及び負債については期末日の為替レート、収益及び費用については著しい変動のない限り期中の平均為替レートを用いて日本円に換算しております。在外営業活動体の財務諸表の換算から生じる換算差額は、その他の包括利益として認識しております。在外営業活動体の換算差額は、在外営業活動体が処分された期間に純損益として認識しております。

## (4) 金融商品

## ① 金融資産

## (i) 当初認識及び測定

金融資産は、当初認識時に、償却原価で測定する金融資産と公正価値で測定する金融資産に分類しております。

金融資産は、以下の条件がともに満たされる場合には償却原価で測定する金融資産に分類し、それ以外の場合には公正価値で測定する金融資産へ分類しております。

(a) 契約上のキャッシュ・フローを回収するために資産を保有することを目的とする事業モデルに基づいて、資産が保有されている。

(b) 金融資産の契約条件により、元本及び元本残高に対する利息の支払のみであるキャッシュ・フローが特定の日に生じる。

公正価値で測定する金融資産は、純損益を通じて公正価値で測定しなければならない売買目的で保有する資本性金融商品を除き、資本性金融商品ごとに純損益を通じて公正価値で測定するか、その他の包括利益を通じて公正価値で測定するかを当初取得時に指定し、当該指定を継続的に適用しております。

金融資産は、純損益を通じて公正価値で測定するものではない場合、公正価値に当該金融資産に直接帰属する取引コストを加算した金額で測定しております。ただし、重大な財務要素を含まない営業債権は、取引価格で測定しております。

金融資産のうち、株式及び債券は約定日に当初認識しております。その他のすべての金融資産は取引日に当初認識しております。

## (ii) 事後測定

金融資産の当初認識後の測定は、その分類に応じて以下のとおり測定しております。

## (a) 償却原価で測定する金融資産

実効金利法による償却原価で測定しております。

## (b) 公正価値で測定する金融資産

公正価値で測定しております。

公正価値で測定する金融資産の公正価値の変動額は純損益として認識しております。ただし、資本性金融商品のうち、その他の包括利益を通じて公正価値で測定すると指定したものについては、公正価値の変動額はその他の包括利益として認識し、認識を中止した場合には利益剰余金に直接振り替えております。

## (iii) 認識の中止

金融資産は、金融資産からのキャッシュ・フローに対する契約上の権利が消滅した場合、又は金融資産のキャッシュ・フローを受け取る契約上の権利を譲渡し、当該金融資産の所有に係るリスクと経済価値のほとんどすべてが移転している場合において、認識を中止しております。

## ② 金融資産の減損

償却原価で測定される金融資産に係る減損については、当該金融資産に係る予想信用損失に対する貸倒引当金を認識しており、予想信用損失は、契約に従って企業に支払われるべきすべての契約上のキャッシュ・フローと、企業が受け取ると見込んでいるすべてのキャッシュ・フローとの差額の現在価値として測定しております。

当社グループは、各報告日において、金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大したかどうかを評価しております。当社グループは、金融資産の予想信用損失を以下のものを反映する方法で見積もっております。

金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大していない場合には、当該金融商品に係る貸倒引当金を12か月の予想信用損失と同額で測定しております。一方で、金融商品に係る信用リスクが当初認識以降に著しく増大している場合には、当該金融商品に係る貸倒引当金を全期間の予想信用損失と同額で測定しております。

なお、営業債権等については常に貸倒引当金を全期間の予想信用損失と同額で測定しております。

また、信用リスクが著しく増大しているか否かは、債務不履行発生リスクの変動に基づき判断しており、債務不履行発生リスクに変動があるかどうかの判断にあたっては、次を考慮しております。

- ・取引先相手の財務状況
- ・過去の貸倒損失計上実績
- ・過去の期日経過情報

減損損失認識後に減損損失を減額する事象が発生した場合は、減損損失の減少額を純損益として戻入しております。

## ③ 金融負債

## (i) 当初認識及び測定

金融負債は、当初認識時に、償却原価で測定する金融負債と純損益を通じて公正価値で測定する金融負債に分類しております。すべての金融負債は公正価値で当初測定しておりますが、償却原価で測定する金融負債については、直接帰属する取引コストを控除した金額で測定しております。

## (ii) 事後測定

金融負債の当初認識後の測定は、その分類に応じて以下のとおり測定しております。

## (a) 償却原価で測定する金融負債

実効金利法による償却原価で測定しております。実効金利法による償却及び認識を中止した場合の利得及び損失は、純損益として認識しております。

## (b) 純損益を通じて公正価値で測定する金融負債

公正価値で測定しております。

公正価値で測定する金融負債の公正価値の変動額は純損益として認識しております。

## (iii) 認識の中止

金融負債は、契約中に特定された債務が免責、取消し、又は失効になった場合に認識を中止しております。

## ④ 公正価値の測定方法

公正価値で算定する金融商品は、その測定のために使われるインプット情報における外部からの観察可能性に応じて、次の3つのレベルに区分しております。

レベル1：活発な市場における公表価格により測定された公正価値

レベル2：レベル1以外の、観察可能な価格を直接又は間接的に使用して算出された公正価値

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプットを含む評価技法から算出された公正価値

## ⑤ 金融資産及び金融負債の表示

金融資産及び金融負債は、当社グループが残高を相殺する法的に強制可能な権利を現在有し、かつ純額で決済するか又は資産の実現と負債の決済を同時に行う意図を有する場合にのみ、連結財政状態計算書上で相殺し、純額で表示しております。

## (5) 現金及び現金同等物

現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資から構成されております。

## (6) 棚卸資産

棚卸資産は、取得原価と正味実現可能価額のいずれか低い方の金額で測定しております。取得原価には、購入原価、加工費及び棚卸資産の現在の保管場所及び状態に至るまでに発生したその他の原価のすべてを含んでおります。正味実現可能価額は、通常の事業の過程における見積売価から、完成までに要する費用及び販売に要する見積費用を控除した額となっております。

原価の算定にあたっては、個別法又は総平均法に基づいて算出しております。

## (7) 有形固定資産

## ① 認識及び測定

有形固定資産については、原価モデルを採用し、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で測定しております。

取得原価には、資産の取得に直接付随するコストを含んでおります。

## ② 減価償却

有形固定資産(土地等の償却を行わない資産を除く)は、それぞれの見積耐用年数にわたって定額法により減価償却を行っております。

主な見積耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物	15～65年
機械装置	6～20年
工具、器具及び備品	5～10年

なお、見積耐用年数、残存価額及び減価償却方法は、各連結会計年度末に見直しを行い、必要に応じて改定しております。

## (8) のれん及び無形資産

## ① のれん

当社グループは、のれんを取得日時時点で測定した取得対価から、取得日時点における識別可能な取得資産及び引受負債の純認識額を控除した額として測定しております。

また、のれんは取得原価から減損損失累計額を控除した帳簿価額にて計上しており、償却は行わず、少なくとも年1回、又は減損の兆候が存在する場合にはその都度減損テストを実施しております。のれんの減損損失は当期の純損益として計上しており、その後ののれんの減損損失の戻入れは行っておりません。

## ② 無形資産

個別に取得した無形資産は、当初認識時に取得原価で測定しております。また、企業結合で取得した無形資産は、取得日の公正価値で測定しております。

無形資産は、原価モデルを採用し、取得原価から償却累計額及び減損損失累計額を控除した額で表示しております。

耐用年数を確定できる無形資産の償却は使用可能となった時点より開始され、それぞれの見積耐用年数にわたって定額法により行っております。主な無形資産の見積耐用年数は以下のとおりであります。

顧客関係無形資産	13年
技術関連無形資産	13年
ソフトウェア	5年

なお、見積耐用年数、残存価額及び償却方法は、各連結会計年度末に見直しを行い、必要に応じて改定しております。

## (9) 売却目的で保有する非流動資産

継続的使用ではなく、売却によって回収が見込まれる非流動資産又は資産グループは、現状で直ちに売却することが可能であり、経営者が売却契約の実行を確約し、1年以内で売却が完了する予定である場合に売却目的保有に分類しております。

売却目的で保有する非流動資産は、減価償却又は償却を行わず、帳簿価額と売却費用控除後の公正価値のうち、いずれか低い方の金額で測定しております。

## (10) リース

契約がリースであるか又は契約にリースが含まれているか否かについては、リース開始日における契約の実質を基に判断しております。

契約上、資産の所有に伴うすべてのリスクと経済価値を実質的に享受するリースをファイナンス・リースとして分類し、それ以外のリースはオペレーティング・リースとして分類しております。

## ① 借手の場合

ファイナンス・リース取引においては、リース資産及びリース債務は、リース物件の公正価値又は最低支払リース料総額の現在価値のいずれか低い方の金額をもって認識しております。リース資産は、その資産に適用される会計方針に基づいて、定額法により減価償却を行っております。

オペレーティング・リース取引においては、支払リース料はリース期間にわたり定額法により費用として認識しております。

## ② 貸手の場合

ファイナンス・リース取引によるリース債権は、対象リース取引の正味投資未回収額を債権として計上しております。

## (11) 非金融資産の減損

棚卸資産及び繰延税金資産を除く、当社グループの非金融資産については、期末日ごとに減損の兆候の有無を判断しております。減損の兆候が存在する場合には、当該資産又は当該資産の属する資金生成単位の回収可能価額の見積り、減損テストを実施しております。減損テストの実施単位である資金生成単位は、他の資産又は資産グループからのキャッシュ・インフローとは概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。のれんについては、適切な資金生成単位に配分し、減損の兆候に関わらず、少なくとも年1回、又は減損の兆候がある場合にはその都度減損テストを実施しております。

資産又は資金生成単位の回収可能価額は、売却コスト控除後の公正価値と使用価値のいずれか高い方の金額としております。使用価値の算出において、見積将来キャッシュ・フローを、貨幣の時間的価値及び当該資産に固有のリスクを反映した税引前割引率を用いて現在価値に割り引いております。

資産又は資金生成単位の回収可能価額が帳簿価額を下回った場合には、その差額を減損損失として当期の純損益に計上しております。認識した減損損失は、まずその資金生成単位に配分されたのれんの帳簿価額を減額するよう配分し、次に資金生成単位内ののれんを除く各資産の帳簿価額を比例的に減額するように配分しております。

過去に認識した減損損失に戻入れの兆候があり、回収可能価額の見積りを行った結果、資産又は資金生成単位の回収可能価額が帳簿価額を上回った場合、減損損失に戻入れを行っております。当該減損損失に戻入れは、戻入れ時点における資産又は資金生成単位が、仮に減損損失を認識していなかった場合の帳簿価額を超えない範囲で行っております。減損損失に戻入れは直ちに純損益を通じて認識しております。なお、のれんに関連する減損損失は戻入れいたしません。

## (12) 従業員給付

## ① 退職後給付

当社グループは、主として、確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

## (i) 確定給付制度

確定給付債務の現在価値及び関連する当期勤務費用並びに過去勤務費用は、予測単位積増方式を用いて個々の制度ごとに算定しておりますが、勤続年数の後半に著しく高水準の給付が生じる場合には、定額法により補正する方式を用いております。

割引率は、将来の給付支払見込日までの期間を基に割引期間を設定し、割引期間に対応した期末日時点の優良債券の利回りに基づいております。

確定給付制度に係る負債又は資産は、確定給付債務の現在価値から制度資産の公正価値を控除して算定しております。

数理計算上の差異は、発生した期間のその他の包括利益として認識し、直ちに利益剰余金に振り替えております。また、過去勤務費用は純損益として認識しております。

## (ii) 確定拠出制度

確定拠出制度の退職給付に係る費用は、従業員が関連するサービスを提供した時点で費用として認識しております。

## ② 短期従業員給付

短期従業員給付については、割引計算を行わず、従業員が関連する勤務を提供した時点で費用として認識しております。

従業員から過去に提供された労働の対価として支払うべき現在の法的もしくは推定的債務を負っており、かつ、その金額が信頼性をもって見積りが可能な場合に支払われると見積られる額を負債として認識しております。

## ③ その他の従業員給付

退職後給付以外の長期従業員給付に対する債務は、従業員が過年度及び当年度において提供した労働の対価として獲得した将来給付の見積額を現在価値に割り引くことによって算定しております。

## (13)株式に基づく報酬

当社は、取締役(監査等委員である取締役を除く)に対するインセンティブ制度として、持分決済型のストック・オプション制度を導入しております。

付与日におけるストック・オプションの公正価値はブラック・ショールズモデルにより算出しております。

ストック・オプションの付与日に決定した公正価値は、付与日から権利確定期間にわたって費用として認識し、同額を資本剰余金の増加として認識しております。

## (14)引当金

過去の事象の結果として、現在の法的又は推定的債務が存在し、当該債務を決済するために経済的便益をもつ資源の流出が必要となる可能性が高く、その債務の金額を信頼性をもって見積ることができる場合に、引当金を認識しております。

引当金の決済に必要な支出の一部又は全部が他者から補填されると予想される場合で、当該補填を受けられることが概ね確実な場合のみ、補填を別個の資産として認識しております。

## ① 資産除去債務

有形固定資産に関連する有害物質の除去や、賃借不動産に関する原状回復義務に備えるため、過年度の実績に基づき算定した将来の支出見込額を現在価値に割り引いた金額を計上しております。

## ② 製品保証引当金

製品等の無償アフターサービスに係る製品保証費の支出に備えるため、保証期間中の製品保証費用見込額を過去の実績に基づいて計上しております。

## ③ 受注損失引当金

受注案件に係る将来の損失に備えるため、損失の発生可能性が高く、かつ、当該損失額を信頼性をもって見積可能なものについて、損失見込額を計上しております。

## (15)資本

## ① 普通株式

当社が発行した資本性金融商品は、発行価額を資本金及び資本剰余金に計上し、発行コストは、直接、資本剰余金から控除しております。

## ② 自己株式

自己株式は取得原価で認識し、資本から控除しております。自己株式の購入及び売却において純損益は認識していません。なお、帳簿価額と売却時の対価との差額は資本剰余金として認識しております。

## (16) 収益

収益は、値引、割引、割戻及び消費税等の税金を控除した後の受領する対価の公正価値で測定しております。

## ① 物品の販売

物品の所有に伴う重要なリスクと経済価値が顧客に移転し、物品に対する継続的な管理上の関与も実質的な支配も保持せず、その取引に関連する経済的便益が流入する可能性が高く、その取引に関連して発生した原価と収益の金額を信頼性をもって測定できる場合に、収益を認識しております。

物品の所有に係るリスク及び経済価値の移転時期は、個々の販売契約において異なりますが、その履行義務の形態に応じて判断しております。船用ボイラなど一部の商品については、主として顧客に物品を引渡した時点で収益認識を行い、産業用ボイラ及び関連機器については、主として顧客による検収がなされた時点で収益認識をしております。

## ② 役務の提供

役務の提供に関する取引の成果を信頼性をもって見積ることができる場合に、その取引に関する収益を、期末日現在のその取引の進捗度に応じて認識しております。

役務の提供については、主に有償保守管理契約によってなされており、当該契約に基づく収益は契約期間にわたって定額法により認識しております。また、短期間で終了する修理、メンテナンスについては、当該役務提供時点において、収益を認識しております。

## ③ 利息及び配当金

利息については、実効金利法により収益を認識しております。また、配当金については、支払いを受ける権利が確定した時点において、収益を認識しております。

## ④ リース収益

契約により、実質的にすべてのリスク及び経済的便益が借手に移転するリースは、ファイナンス・リースとして分類しております。ファイナンス・リース以外のリースはオペレーティング・リースに分類しております。

製造業者又は販売業者としての貸手となる場合、ファイナンス・リースに係る収益は、物品販売と同様の会計方針に従って認識しております。金融収益については、リース期間の起算日以降、実効金利法に基づき認識しております。

計算利率は、最低受取リース料総額と無保証残存価値を合計した現在価値が、リース資産の公正価値と貸手の初期直接原価の合計額と等しくなる割引率を使用しております。

オペレーティング・リースに係る収益は、リース期間にわたり定額法により認識しております。

## ⑤ ロイヤリティ

ロイヤリティは、関連する契約の実質に従って発生基準で認識しております。

## (17) 政府補助金

政府補助金は、補助金交付のための付帯条件を満たし、かつ補助金を受領するという合理的な保証が得られた場合に、公正価値で認識しております。

政府補助金が費用項目に関する場合は、当該補助金で補填することを意図している関連費用を認識する期間にわたって、規則的に収益認識しております。資産取得に関する政府補助金は、当該補助金の金額を繰延収益に認識し、関連する資産の耐用年数にわたって規則的に純損益に認識しております。

## (18) 法人所得税

当期税金は、税務当局に対する納付又は税務当局から還付が予想される金額で測定しております。当該金額は、報告期間の末日までに制定又は実質的に制定されている税率及び税法に基づき算定しております。

繰延税金は、資産負債法により、資産及び負債の税務基準額と連結財務諸表上の帳簿価額との間に生じる一時差異に対して認識しております。

なお、以下の一時差異に対しては、繰延税金を認識しておりません。

- ・ のれんの当初認識から生じる場合
- ・ 企業結合でなく、かつ、取引日に会計上の純損益及び課税所得(欠損金)に影響を与えない取引において資産又は負債の当初認識から生じる場合
- ・ 子会社、関連会社に対する投資に係る将来加算一時差異のうち、一時差異の解消時期をコントロールでき、かつ予見可能な期間内に一時差異が解消されない可能性が高い場合
- ・ 子会社、関連会社に対する投資に係る将来減算一時差異のうち、予見可能な期間内に一時差異が解消されない可能性が高い場合、又は当該一時差異の使用対象となる課税所得が稼得される可能性が低い場合

繰延税金の算定には、期末日までに制定又は実質的に制定されており、関連する繰延税金資産が実現する期間又は繰延税金負債が決済される期間において適用されると予想される法定税率(及び税法)を使用しております。

繰延税金資産は、一時差異を利用できるだけの課税所得が生じる可能性が高い範囲内においてのみ認識しております。

関連する当期税金資産と当期税金負債を相殺する法的強制力のある権利が存在し、かつ繰延税金資産及び繰延税金負債が同一の税務当局によって同一の納税主体に課せられたものである場合、当該繰延税金資産と繰延税金負債は相殺しております。

## (19) 1株当たり利益

基本的1株当たり当期利益は、親会社の所有者に帰属する当期利益を、その期間の自己株式を調整した発行済普通株式の加重平均株式数で除して算定しております。希薄化後1株当たり当期利益は、希薄化効果を有するすべての潜在的普通株式の影響を調整して算定しております。

## 4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定を設定することが要求されております。ただし、実際の業績はこれらの見積りとは異なる場合があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直しております。会計上の見積りの改訂は、見積りが改訂された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識しております。

連結財務諸表の金額に重要な影響を与える経営者の見積り及び判断に関する事項は以下のとおりであります。

- ・ 有形固定資産、のれん及び無形資産の減損(注記「3. 重要な会計方針 (11)非金融資産の減損」)
- ・ 繰延税金資産の回収可能性(注記「3. 重要な会計方針 (18)法人所得税」)
- ・ 金融商品の公正価値測定(注記「3. 重要な会計方針 (4)金融商品」)
- ・ 製品保証引当金(注記「3. 重要な会計方針 (14)引当金」)
- ・ 確定給付制度債務の測定(注記「3. 重要な会計方針 (12)従業員給付」)
- ・ 収益(注記「3. 重要な会計方針 (16)収益」)

## (セグメント情報)

## (1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主にボイラ及び関連機器等の製造販売・メンテナンスを手がけており、国内事業は当社及び国内連結子会社が、海外事業は海外連結子会社が、それぞれ担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、取扱い製品について各地域から包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

また、当社グループは、2017年7月3日付で、業務用洗濯機、乾燥機等の製造・販売企業である株式会社アイナックス稲本ホールディングスの株式を100%取得いたしました。

これに伴い、当社グループは、製造販売・メンテナンス体制を基礎として国内・海外事業別のセグメントから構成されている「国内機器販売事業」「国内メンテナンス事業」「海外機器販売事業」「海外メンテナンス事業」に「国内ランドリー事業」を追加し、報告セグメントとしております。

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、注記「3. 重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

## (2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。

なお、セグメント間の内部売上収益及び振替高は、市場実勢価格を勘案して決定された金額に基づいております。

## I 前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント					計	その他 (注) 2	合計	調整額 (注) 3	連結 損益 計算書 計上額
	国内 (注) 1			海外 (注) 1						
	機器販売 事業	メンテ ナンス 事業	ランド リー 事業	機器販売 事業	メンテ ナンス 事業					
売上収益										
外部顧客への売上収益	54,819	28,143	—	14,856	4,451	102,271	53	102,324	—	102,324
セグメント間の内部売上収益及び振替高	2,339	137	—	171	37	2,685	437	3,123	△3,123	—
計	57,159	28,281	—	15,028	4,488	104,957	490	105,448	△3,123	102,324
セグメント利益又は損失(△)	4,083	7,320	—	934	166	12,505	23	12,529	△128	12,401
金融収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	497
金融費用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
税引前当期利益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12,898
その他の項目										
減価償却費及び償却費	1,426	247	—	420	32	2,127	0	2,127	354	2,482
減損損失	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20
資本的支出	2,179	249	—	310	21	2,761	0	2,761	328	3,090

(注) 1 報告セグメントの「国内」の区分は当社及び国内連結子会社、「海外」の区分は海外連結子会社の事業活動に係るものであります。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、当社グループで行っている不動産管理、保険代理業を含んでおります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、セグメント間の内部取引消去が含まれております。その他の項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産に係る費用等であります。

## II 当連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					計	その他 (注)3	合計	調整額 (注)4	連結 損益 計算書 計上額
	国内 (注)1			海外 (注)1						
	機器販売 事業	メンテ ナンス 事業	ランド リー 事業 (注)2	機器販売 事業	メンテ ナンス 事業					
売上収益										
外部顧客への売上収益	58,194	29,609	13,880	18,065	5,075	124,824	59	124,883	—	124,883
セグメント間の内部売 上収益及び振替高	3,400	175	9	269	30	3,885	428	4,313	△4,313	—
計	61,594	29,784	13,889	18,334	5,105	128,709	487	129,197	△4,313	124,883
セグメント利益又は損失 (△)	4,539	7,896	55	1,104	292	13,887	39	13,927	△58	13,868
金融収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	380
金融費用	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66
税引前当期利益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14,183
その他の項目										
減価償却費及び償却費	1,647	253	824	354	34	3,114	1	3,116	533	3,649
減損損失	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
資本的支出	3,656	497	172	220	35	4,583	12	4,596	654	5,250

(注)1 報告セグメントの「国内」の区分は当社及び国内連結子会社、「海外」の区分は海外連結子会社の事業活動に係るものであります。

2 「国内」の区分における「ランドリー事業」セグメントには、MLE株式会社における同社設立関連費用等39百万円及び企業結合に伴う取得関連コスト122百万円、並びに企業結合において取得した無形資産の償却費590百万円が含まれております。

3 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、当社グループが行っている不動産管理、保険代理業を含んでおります。

4 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、セグメント間の内部取引消去が含まれております。その他の項目の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社資産に係る費用等であります。

## (1株当たり情報)

基本的1株当たり当期利益及び希薄化後1株当たり当期利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
基本的1株当たり当期利益の算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する当期利益(百万円)	9,012	10,363
基本的1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益(百万円)	9,012	10,363
期中平均普通株式数(千株)	112,535	112,538
希薄化後1株当たり当期利益の算定上の基礎		
基本的1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益(百万円)	9,012	10,363
希薄化後1株当たり当期利益の計算に使用する当期利益(百万円)	9,012	10,363
期中平均普通株式数(千株)	112,535	112,538
新株予約権による普通株式増加数(千株)	265	293
希薄化効果調整後期中平均普通株式数(千株)	112,801	112,832

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

(初度適用)

当社グループは、当連結会計年度からIFRSに準拠した連結財務諸表を作成しております。日本基準に準拠して作成した直近の連結財務諸表は、2017年3月31日に終了した連結会計年度に関するものであり、IFRS移行日は2016年4月1日であります。

(1) IFRS第1号の免除規定

IFRS第1号は、IFRSを初めて適用する企業に対し、原則としてIFRSを遡及的に適用することを求めています。ただし、一部について遡及適用しないことを任意で選択できる免除規定が定められており、当社グループは、主に以下の項目について当該免除規定を採用しております。

① 企業結合

IFRS移行日より前の企業結合については、IFRS第3号「企業結合」を遡及適用しておりません。

② みなし原価

一部の有形固定資産について、IFRS移行日現在の公正価値を当該日のみなし原価として使用しております。

③ 在外営業活動体の換算差額

IFRS移行日現在の在外営業活動体の換算差額の累計額をすべて利益剰余金に振り替えております。

④ 株式に基づく報酬

IFRS移行日より前に権利確定した株式に基づく報酬については、IFRS第2号「株式に基づく報酬」を遡及適用しておりません。

⑤ IFRS移行日以前に認識された金融商品の指定

IFRS移行日以前に認識した金融商品についてのIFRS第9号「金融商品」に基づく指定を、IFRS移行日時点で存在する事実及び状況に基づき行っております。

(2) IFRS第1号の遡及適用に対する強制的な例外規定

IFRS第1号では、「見積り」、「金融資産及び金融負債の認識の中止」、「非支配持分」及び「金融資産の分類及び測定」について、IFRSの遡及適用を禁止しております。当社グループは、これらの項目についてIFRS移行日より将来に向かって適用しております。

## (3) 調整表

IFRSに基づく連結財務諸表の作成にあたり、当社グループは、日本基準に準拠し作成した連結財務諸表の金額を調整しております。日本基準からIFRSへの移行が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響は、以下のとおりであります。

## ① 資本に対する調整

(i) IFRS移行日(2016年4月1日)

(単位：百万円)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び測定の違い	IFRS	注記	IFRS表示科目
資産の部						資産
流動資産						流動資産
現金及び預金	31,271	△7,160	111	24,222		現金及び現金同等物
	—	27,698	1,710	29,408	A	営業債権及びその他の債権
受取手形及び売掛金	23,676	△23,676	—	—		
電子記録債権	1,976	△1,976	—	—		
リース投資資産	2,014	△2,014	—	—		
有価証券	5,073	△5,073	—	—		
	—	13,847	△39	13,808	A	棚卸資産
商品及び製品	4,442	△4,442	—	—		
仕掛品	3,117	△3,117	—	—		
原材料及び貯蔵品	6,287	△6,287	—	—		
	—	12,393	△157	12,236		その他の金融資産
繰延税金資産	2,110	△2,110	—	—		
その他	838	△288	21	571		その他の流動資産
貸倒引当金	△98	98	—	—		
流動資産合計	80,711	△2,110	1,647	80,247		流動資産合計
固定資産						非流動資産
有形固定資産	39,414	—	△3,623	35,791	B	有形固定資産
無形固定資産	686	△29	1	658		のれん及び無形資産
	—	13,702	△53	13,649		その他の金融資産
投資有価証券	12,657	△12,657	—	—		
退職給付に係る資産	1,039	—	198	1,237	E	退職給付に係る資産
繰延税金資産	61	2,110	△610	1,562	F	繰延税金資産
	—	149	△54	95		その他の非流動資産
長期預金	60	△60	—	—		
その他	1,139	△1,139	—	—		
貸倒引当金	△34	34	—	—		
固定資産合計	55,024	2,110	△4,140	52,994		非流動資産合計
資産合計	135,735	—	△2,492	133,242		資産合計

(注) 「認識及び測定の違い」には日本基準とIFRSで連結子会社の範囲が異なることによる影響が含まれております。IFRSへの移行により、資産が7百万円増加しており、主なものとして、現金及び現金同等物が111百万円増加、棚卸資産が19百万円増加、その他の金融資産(流動)が157百万円減少、有形固定資産が36百万円増加しております。

(単位: 百万円)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び測定 の差異	IFRS	注記	IFRS表示科目
負債の部						負債
流動負債						流動負債
	—	7,288	311	7,599	D	営業債務及びその他の債務
支払手形及び買掛金	3,532	△3,532	—	—		
	—	29	△0	28		その他の金融負債
未払法人税等	2,177	—	—	2,177		未払法人所得税等
	—	706	—	706		引当金
	—	16,103	1,490	17,594	C	その他の流動負債
前受金	8,296	△8,296	—	—		
製品保証引当金	700	△700	—	—		
賞与引当金	3,730	△3,730	—	—		
株主優待引当金	34	△34	—	—		
資産除去債務	6	△6	—	—		
その他	7,828	△7,828	—	—		
流動負債合計	26,306	△0	1,800	28,107		流動負債合計
固定負債						非流動負債
	—	17	△0	16		その他の金融負債
退職給付に係る負債	385	—	0	386	E	退職給付に係る負債
	—	—	1	1		引当金
役員退職慰労引当金	84	△84	—	—		
繰延税金負債	1,779	0	△1,698	81	F	繰延税金負債
その他	303	67	—	370		その他の非流動負債
固定負債合計	2,553	0	△1,697	856		非流動負債合計
負債合計	28,860	—	103	28,963		負債合計
純資産の部						資本
株主資本						親会社の所有者に帰属する持分
資本金	9,544	—	—	9,544		資本金
資本剰余金	10,097	246	—	10,344		資本剰余金
利益剰余金	91,219	—	△3,260	87,958	A, B, C, D, E, F, G	利益剰余金
自己株式	△7,042	—	—	△7,042		自己株式
その他の包括利益累計額	2,552	—	655	3,207	E, G	その他の資本の構成要素
	106,370	246	△2,604	104,012		親会社の所有者に帰属する 持分合計
新株予約権	246	△246	—	—		
非支配株主持分	258	—	8	266		非支配持分
純資産合計	106,875	—	△2,596	104,278		資本合計
負債純資産合計	135,735	—	△2,492	133,242		負債及び資本合計

(注) 「認識及び測定の違い」には日本基準とIFRSで連結子会社の範囲が異なることによる影響が含まれております。IFRSへの移行により、負債が4百万円増加しており、主なものとして、営業債務及びその他の債務が6百万円減少、その他の流動負債が8百万円増加、引当金(非流動)が1百万円増加しております。また資本が3百万円増加しており、主なものとして、利益剰余金が6百万円減少、非支配持分が9百万円増加しております。

(ii) 前連結会計年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び測定の差異	IFRS	注記	IFRS表示科目
資産の部						資産
流動資産						流動資産
現金及び預金	22,883	8,228	92	31,205		現金及び現金同等物
	—	29,640	1,557	31,197	A	営業債権及びその他の債権
受取手形及び売掛金	24,980	△24,980	—	—		
電子記録債権	2,661	△2,661	—	—		
リース投資資産	1,891	△1,891	—	—		
有価証券	19,050	△19,050	—	—		
	—	14,999	15	15,014	A	棚卸資産
商品及び製品	4,897	△4,897	—	—		
仕掛品	3,311	△3,311	—	—		
原材料及び貯蔵品	6,790	△6,790	—	—		
	—	10,985	△160	10,824		その他の金融資産
繰延税金資産	2,340	△2,340	—	—		
その他	916	△329	4	591		その他の流動資産
貸倒引当金	△58	58	—	—		
流動資産合計	89,665	△2,340	1,510	88,835		流動資産合計
固定資産						非流動資産
有形固定資産	39,462	—	△3,293	36,168	B	有形固定資産
無形固定資産	819	△26	2	795		のれん及び無形資産
	—	11,125	8	11,134		その他の金融資産
投資有価証券	9,936	△9,936	—	—		
退職給付に係る資産	1,834	—	△1,007	826	E	退職給付に係る資産
繰延税金資産	82	2,340	△8	2,414	F	繰延税金資産
	—	45	25	70		その他の非流動資産
長期預金	89	△89	—	—		
その他	1,173	△1,173	—	—		
貸倒引当金	△55	55	—	—		
固定資産合計	53,343	2,340	△4,273	51,410		非流動資産合計
資産合計	143,008	—	△2,763	140,245		資産合計

(注) 「認識及び測定の差異」には日本基準とIFRSで連結子会社の範囲が異なることによる影響が含まれております。IFRSへの移行により、資産が15百万円増加しており、主なものとして、現金及び現金同等物が92百万円増加、棚卸資産が54百万円増加、その他の金融資産(流動)が160百万円減少、有形固定資産が33百万円増加しております。

(単位：百万円)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び測定 の差異	IFRS	注記	IFRS表示科目
負債の部						負債
流動負債						流動負債
支払手形及び買掛金	—	7,201	313	7,515	D	営業債務及びその他の債務
	3,772	△3,772	—	—		
	—	6	△0	6		その他の金融負債
未払法人税等	2,386	—	—	2,386		未払法人所得税等
	—	890	△1	889		引当金
	—	17,984	1,777	19,762	C	その他の流動負債
前受金	9,436	△9,436	—	—		
製品保証引当金	795	△795	—	—		
賞与引当金	4,562	△4,562	—	—		
受注損失引当金	88	△88	—	—		
株主優待引当金	39	△39	—	—		
資産除去債務	6	△6	—	—		
その他	7,381	△7,381	—	—		
流動負債合計	28,469	—	2,089	30,559		流動負債合計
固定負債						非流動負債
	—	12	—	12		その他の金融負債
退職給付に係る負債	430	—	0	430	E	退職給付に係る負債
	—	—	1	1		引当金
役員退職慰労引当金	78	△78	—	—		
繰延税金負債	1,526	—	△1,472	54	F	繰延税金負債
その他	232	66	—	298		その他の非流動負債
固定負債合計	2,267	—	△1,470	797		非流動負債合計
負債合計	30,737	—	619	31,356		負債合計
純資産の部						資本
株主資本						親会社の所有者に帰属する持分
資本金	9,544	—	—	9,544		資本金
資本剰余金	10,138	268	—	10,406		資本剰余金
利益剰余金	97,019	—	△3,159	93,859	A, B, C, D, E, F	利益剰余金
自己株式	△7,020	—	—	△7,020		自己株式
その他の包括利益累計額	2,097	—	△202	1,894	E	その他の資本の構成要素
	111,778	268	△3,361	108,685		親会社の所有者に帰属する 持分合計
新株予約権	268	△268	—	—		
非支配株主持分	223	—	△20	203		非支配持分
純資産合計	112,270	—	△3,382	108,888		資本合計
負債純資産合計	143,008	—	△2,763	140,245		負債及び資本合計

(注) 「認識及び測定の違い」には日本基準とIFRSで連結子会社の範囲が異なることによる影響が含まれております。IFRSへの移行により、負債が59百万円増加しており、主なものとして、その他の流動負債が59百万円増加しております。また資本が43百万円減少しており、主なものとして、利益剰余金が27百万円、非支配持分が14百万円それぞれ減少しております。

## ② 損益及び包括利益に対する調整

前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

(単位:百万円)

日本基準表示科目	日本基準	表示組替	認識及び測定 の差異	IFRS	注記	IFRS表示科目
売上高	102,549	—	△224	102,324	A	売上収益
売上原価	60,865	—	△689	60,176	A, B, C, D, E	売上原価
売上総利益	41,683	—	464	42,148		売上総利益
販売費及び一般管理費	31,105	94	△952	30,247	B, C, D, E	販売費及び一般管理費
	—	929	△306	622	B	その他の収益
	—	147	△25	121	B	その他の費用
営業利益	10,577	686	1,136	12,401		営業利益
	—	492	4	497		金融収益
	—	18	△18	0		金融費用
営業外収益	1,378	△1,378	—	—		
営業外費用	42	△42	—	—		
特別利益	6	△6	—	—		
特別損失	86	△86	—	—		
税金等調整前当期純利益	11,833	△94	1,159	12,898		税引前当期利益
法人税等合計	3,657	△94	338	3,901	F	法人所得税費用
当期純利益	8,175	—	821	8,996		当期利益
その他の包括利益						その他の包括利益
その他有価証券評価差額金	△1,251	—	△4	△1,256		その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産
退職給付に係る調整額	896	—	△1,644	△748	E	確定給付制度の再測定
為替換算調整勘定	△103	—	46	△56		在外営業活動体の換算差額
その他の包括利益合計	△458	—	△1,603	△2,061		税引後その他の包括利益
包括利益	7,717	—	△782	6,934		当期包括利益

(注) 「認識及び測定の違い」には日本基準とIFRSで連結子会社の範囲が異なることによる影響が含まれております。  
IFRSへの移行により、当期利益が45百万円減少しており、主なものとして、売上収益が74百万円、販売費及び一般管理費が96百万円それぞれ増加しております。

## (4) 調整に関する注記

## ① 表示組替

表示組替については、連結財政状態計算書、連結損益計算書及び連結包括利益計算書の表示の変更であり、利益剰余金への影響はありません。

当社グループは、IFRSの規定に準拠するために表示組替を行っております。主なものは以下のとおりであります。

- ・日本基準において、流動項目として表示している「繰延税金資産」を、IFRSにおいては、非流動項目として表示しております。

## ② 認識及び測定の違い

## A. 収益認識

日本基準では、一部の取引について出荷基準により収益を認識しておりましたが、IFRSでは、物品の所有に伴う重要なリスク及び経済価値が顧客に移転した時点で収益を認識しております。

## B. 有形固定資産

IFRSでは、一部の有形固定資産についてIFRS移行日現在の公正価値をみなし原価として使用することを選択しております。みなし原価を使用した有形固定資産の日本基準のIFRS移行日時点での帳簿価額は21,785百万円、公正価値は16,332百万円であります。公正価値は第三者による鑑定評価により評価しており、レベル3に分類しております。

また、日本基準では、有形固定資産の減価償却方法について、主として定率法を採用しておりましたが、IFRSでは定額法を採用することとしたため差異が生じております。

## C. 有給休暇に係る債務

日本基準では認識していない未消化の有給休暇に係る債務について、IFRSでは、負債として認識しております。

## D. 賦課金

IFRSでは、政府に対する債務が確定した時点で、支払が見込まれる金額を負債として認識しております。

## E. 退職後給付

日本基準では、数理計算上の差異及び過去勤務費用はその他の包括利益累計額として認識し、その後、将来の一定期間にわたり費用処理することとしておりましたが、IFRSでは、数理計算上の差異は発生時にその他の包括利益(「確定給付制度の再測定」として認識し、直ちに利益剰余金に振り替えております。また、過去勤務費用は、発生時に純損益として認識しております。

## F. 法人所得税、繰延税金資産及び繰延税金負債

日本基準では、未実現損益の消去に伴う税効果について、売却元の実効税率を用いて計算しておりましたが、IFRSでは、売却先の実効税率を用いて計算しております。

また、他のIFRSへの差異調整に伴い発生した一時差異に対して、繰延税金資産又は繰延税金負債を計上しております。

## G. 在外営業活動体の換算差額

IFRS第1号の免除規定を採用し、在外営業活動体の換算差額の累計額をIFRS移行日においてゼロとみなし、すべて利益剰余金に振り替えております。

## (5) キャッシュ・フローの調整に関する注記

前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

日本基準に準拠し開示していた連結キャッシュ・フロー計算書とIFRSに準拠し開示されている連結キャッシュ・フロー計算書に、重要な差異はありません。